

No.2906

現代フィリピンの革新勢力とエリートの変容

一橋大学大学院社会学研究科

博士課程

原 民樹

本研究は、「現代フィリピンの革新勢力とエリートの変容」というテーマで、2つの問題を対象に調査を行なった。1つめは、2015年に制定されたフィリピン競争法の成立過程の研究であり、2つめは、マニラ首都圏ヴァレンズエラ市における市政改革の研究である。これら2つの事例を通して、現代フィリピン政治の新しいダイナミズムを捉えることが本研究の目的である。

第1の競争法研究については、2018年4月に、フィリピン競争委員会委員長アルセニオ・バリサカン氏にインタビューを行い、アキノ政権が競争法を重視した理由、他の経済政策との関連、財閥系企業の意識の変化について貴重な証言を得ることができた。また同月2回目のマニラでの調査において、競争法案立法化の主要な推進者であったバム・アキノ上院議員（当時）にインタビューを行い、競争法の立法化の背景にあるフィリピン経済特有の事情、法案審議の中で重視した論点などを聞き取ることができ、法の条文からでは読み取れない競争法の意義について知ることができた。同年6月には、長年、競争法の必要性を提言してきた輸出中小企業の業界団体 PHILEXPORT の担当者に香港でインタビューを行い、中小企業にとって競争法がどのような意義をもつのか、また立法化にあたって重視されるべき論点を聞き取ることができ、競争法制定の背景にある市民社会の声を把握することができた。

第2のヴァレンズエラ市の市政改革については、2019年2月に同市でフィールドワークおよびインタビュー調査を行い、複数の学校施設を訪問し、NGOや市議会議員、市長に面談し、彼らの活動内容、問題意識、成果を聞き取ることができた。

これらの成果は、学会誌への論文投稿、博士論文のかたちで発表予定である。

以上